

「ロボットソフト組込み」職種

2011年度用 ルールブック

※ 記載内容は予告なく変更する場合がある

目次

1. 競技の説明（全体）

1. 職種の名称と定義
2. 組織
3. 参加資格
4. 競技日程及び場所
5. 課題定義
6. 課題内容（概略）
7. 課題評価（採点）
8. 順位の決定
9. 競技エリア
10. 参加者が準備するもの
11. 主催者側が用意するもの
12. 競技エリアに持ち込めないもの
13. 設備の改造
14. 競技中のトラブル対応（共通ルール）
15. ルール違反事項
16. 課題ルール
17. 課題作成の流れ

2. 課題の説明

1. 競技概要
2. 課題内容
3. 取り決め事項
4. 課題開始状態
5. 制限時間
6. 採点と配点
7. 課題作成と採点の流れ

3. ワークスペースの説明

1. ワークスペースの設備
2. ワークスペースでの無線ＬＡＮについて
3. パフォーマンスの準備

4. アリーナの説明

1. アリーナの設備
2. トライアルタイム
3. パフォーマンスの準備
4. 調整の範囲

1、競技の説明（全体）

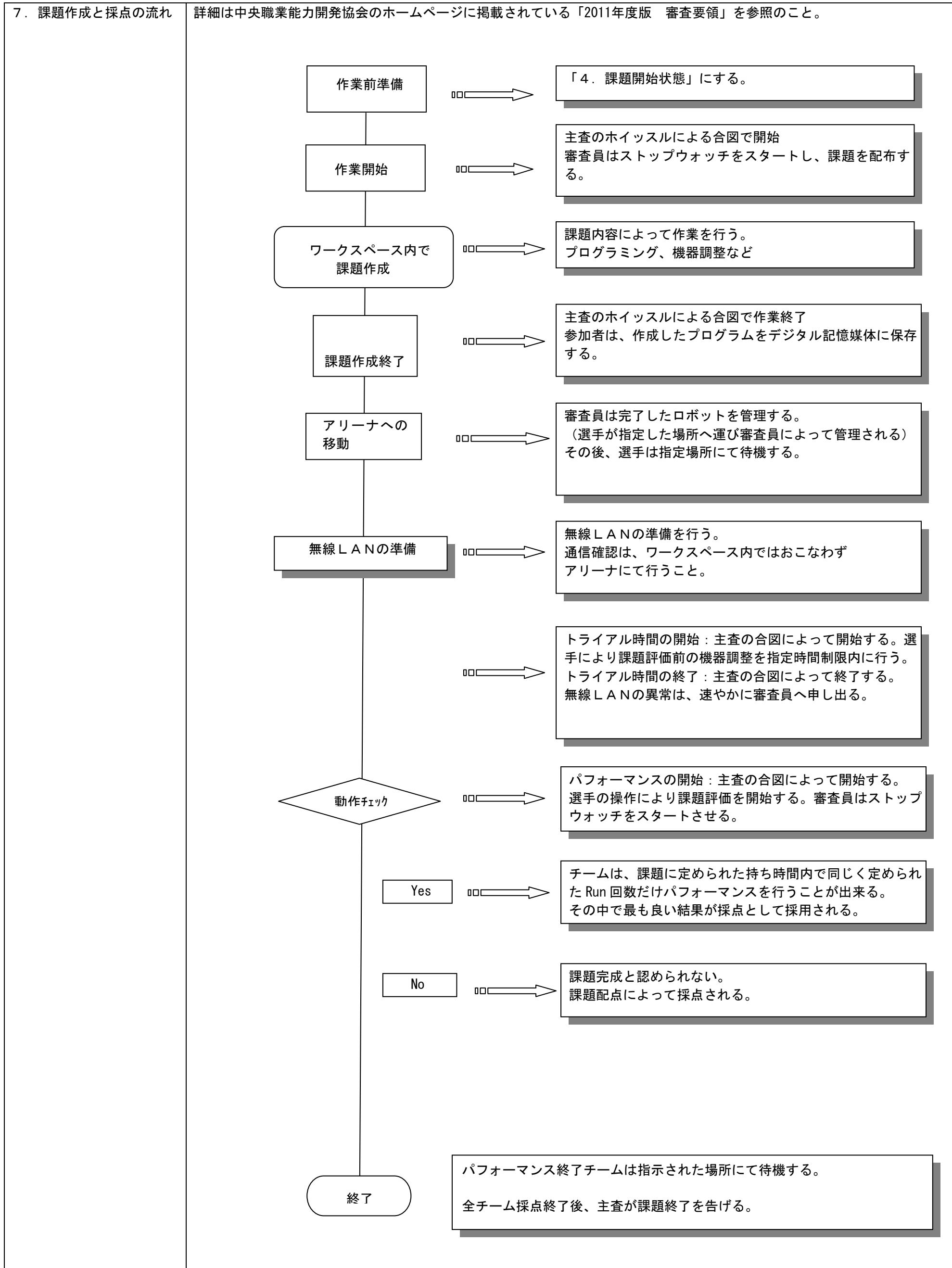
項 目	内 容
1. 職種の名称と定義	<p>1) 職種名称 「ロボットソフト組込み」職種とする。</p> <p>2) 競技の定義 ① ロボット技術者に必要とされる理論および実技の訓練を含んだロボットの機械制御システムに関する事。 ② ロボット内部の機械システムの組立、管理、保守及び制御システムの設置、操作、トラブル解決を行う。</p>
2. 組織	<p>1) 若年者ものづくり競技大会「ロボットソフト組込み」競技の主催者は中央職業能力開発協会である。</p> <p>2) 主催者は「ロボットソフト組込み」職種の競技委員会を設置し、競技委員を任命する。</p> <p>3) 競技委員会は「ロボットソフト組込み」職種競技の運営全般を行う組織である。</p> <p>4) 競技委員会は、①競技委員主査1名：競技委員会を統括する、②競技委員（必要人数）：主査を補佐し、各課題の立案等を行い、競技大会の運営を担当する。③補佐員（必要人数）：主査および競技委員を補佐する。④協力員（必要人数）：競技委員および補佐員に協力する。なお、競技委員主査、競技委員、補佐員および協力員を総称して、審査員と呼ぶ。</p> <p>5) 2011年度の構成 ① 競技委員主査 菊池達也 群馬職業能力開発促進センター ② 競技委員 池田知純 職業能力開発総合大学校 ③ 競技委員 伊藤正博 株式会社デンソー技術研センター 技能開発部 ④ 競技委員 田中敏裕 フエスト株式会社 教育事業部 ⑤ 補佐員 主査および主催者から認められた者 ⑥ 協力員 主査から協力要請が認められた者 </p>
3. 参加資格	<p>1) チーム構成 「ロボットソフト組込み」職種は、1チームあたり2名の選手で構成される。</p> <p>2) 参加資格 ① 年齢制限 全ての選手は、大会開催年度において21歳以下でなければならない。 ② 参加選手に求められる技術 参加選手は下記の要件を有していることが望ましい。 <ul style="list-style-type: none"> ● 論理的問題解決 ● ロボットシステム設計 ● ロボット組立技術 ● ロボット制御プログラムの設計、作成 ● ロボットへの制御システム接続 ● トラブルシューティング技術 ● チームワーク </p>
4. 競技日程及び場所	<p>1) 競技日程は、原則2日間とする。</p> <p>2) 場所は、主催者が指定する。</p>
5. 課題定義	<p>1) 全般的に現行職種定義に準じており、技能五輪世界大会での技術要求および数値表記基準に準拠し、採点として可能なものとする。</p> <p>2) 課題は、競技委員会によって作成される。参加選手によって作成された成果物は、競技委員によって評価、採点される。</p>
6. 課題内容（概略）	<p>1) ロボットの組立、保守、修理及び操作を行う。各課題は複合的に出題されることもある。課題範囲は下記とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● プログラミング課題：複数のタスクで構成、採点される。 ● 組立、メンテナンス課題 ● トラブルシューティング課題 ● 総合課題 <p>2) 各課題は、非公開とし課題開始前に競技委員より各チームに配布される。</p> <p>3) 課題によって時間採点がある。</p> <p>4) 課題採点までの流れ 「2、課題説明」の「7. 課題作成と採点の流れ」のフローチャートを参照のこと。</p>
7. 課題評価（採点）	<p>1) 「ロボットソフト組込み」職種の採点方法は、プログラミング、パフォーマンスで評価される。 ただし、課題内容によって優先される評価比重が変化する。それは、競技委員会によって各課題に設定される。</p> <p>2) 課題には、アリーナでの「課題ルール」と個々の競技に適用される採点形式が含まれる。</p> <p>3) 課題によっては、時間制限や時間採点が採用される。</p>
8. 順位の決定	<p>1) 最終的な総合順位は、全ての競技課題で獲得した得点の合計に基づき行われる。</p>

9. 競技エリア	<p>1) 全体のスペース 競技エリアは、ワークスペース、アリーナ、競技委員会本部、集合エリアで構成される。</p> <p>① ワークスペース ワークスペースはチーム専用作業エリアとして、課題の作成等に使用される。 3m × 3mの範囲以内に、作業用机、椅子、ロボット試運転用エリアが設置され、電源提供用タップが準備される。 作業エリアの割り当ては、事前抽選によって決定される。各チーム間は、パーティションが設置される。</p> <p>② アリーナ 課題採点用エリアで、各チームの完成課題のパフォーマンスを行う共有スペースである。完成課題のパフォーマンス以外には使用しない。（トライアルタイムは除く）パフォーマンス採点のための設定は審査員によって行われる。 3600mm × 1800mmの範囲内で、外枠床立上り250～300mmが設置される。</p> <p>③ 競技委員会本部 競技会本部等の設置場所で、範囲は競技委員会が任意で設定する。</p> <p>④ 集合エリア 集合エリアでは、競技委員が必要に応じて選手を集合させる。椅子およびホワイトボードが設定される。</p>
10. 参加者が準備するもの	<p>1) リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ① モバイルロボット本体：FESTO社製 Robotino ② バッテリー ③ センサ（セットに付属しているもの） ④ マニュアル（セットに付属しているもの） ⑤ LANケーブル（有線LANで使用する）：10m 1本、5m 2本 ⑥ HUB（有線LANで使用する）：適量 ⑦ 外部コントローラ（USB付き）は参加チームが持参すること。事前に動作確認を行っておくこと。 ⑧ ワークスペース内で使用する、動作確認用設備（ジグや木材など） ⑨ 参考資料：テキスト、ノート、資料等。但し、電子データは認めない。 ⑩ 筆記用具および文房具等 ⑪ ロボットの分解、組立、調整が出来る工具を準備すること。大会では一般的な工具を用いる（特に持ち込み工具の制限は無い。）但し、電動工具は認めない。 ⑫ 競技委員が別途、指示したもの。 <p>2) 上記1) 項で不明な点があれば、参加者は事前に主催者に連絡する。</p>
11. 主催者が用意するもの	<p>1) リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ① プログラミング用パソコン：2式 <ul style="list-style-type: none"> ● 無線LANが付属していること。 ● Robotino Viewプログラミングが可能のこと。 ● 作業エリアからアリーナ際へ移動が容易なこと。（競技期間中は、会場より移動することは出来ない。） ● Robotino Viewに関して、拡張子『rvw』で検索しプログラムがない事を確認する。 ② アリーナ用通信機器（外部アクセスポイント、LANケーブル、HUB） ③ 記憶媒体（USBメモリ） ④ アリーナおよびワークスペースの設備。 ⑤ 競技委員が別途、指示したもの。 <p>2) 上記1) 項で不明な点があれば、参加者は事前に主催者に連絡する。</p>
12. 競技エリアに持ち込めないもの	<p>1) リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「10. 参加者が準備するもの」で指定されていないもの。例. 私物のパソコン、携帯電話、カメラ、ゲーム機等。 ② 事前に作成したプログラムを記録したもの（DVD、FDD、USBメモリ等）。 ③ 主査が不適切と判断したもの。
13. 機器の改造	<p>1) ロボット本体の改造は認められない。例. 制御盤内の改造、センサの交換等。</p> <p>2) 機器持ち込み時、競技委員によりチェックを実施する。不具合が確認された場合、競技委員の指示に従ってすみやかに是正しなければならない。</p>
14. 競技中のトラブル対応 (共通ルール)	<p>1) 機器トラブル対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 競技中に参加チームが持ち込んだ機器、部品で故障等発生した場合は、基本的には選手の責任で対応すること。 ② 如何なる場合においても時間計測は停止せずその時点（不具合等の発生した時間、復帰した時間）を審査員は記録する。（不具合責任の所在は主査が判断する） <p>2) 共通ルール（各課題別ルールは各課題内項目参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 機器の標準仕様を満足しない参加者は競技開始までに修正を行う。（修正できない内容に関しては競技への参加が出来ない事もある） ② 選手は、各課題のパフォーマンス中に途中停止等で動作が継続できない状態になっても、選手の判断でアリーナ上の機器に手を出してはならない。 ③ 選手は、審査員の指示に従い操作を行う。（審査員が判断できない場合は主査が指示する） ④ 審査員は、各課題の審査中に動作継続できない状態を確認したら的確な指示をする。 ⑤ 審査員は選手が怪我した場合、競技時間内であっても2名とも作業停止して手当を行う。但し他チームの原因で発生した場合は 主査の判断で対応する。
15. ルール違反事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 選手は同一路由違反2回目の注意で、その課題の配点はゼロとなる。 ② 課題説明資料を受けた審査員は、資料受取以降競技開始まで、選手やそれ以外の者との接触は一切禁止する。

16. 課題ルール	<p>1) 共通ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 競技中、選手はいかなる場合においても選手以外の者からのアドバイスや助力を受けることは出来ない。 ② 時間に内に競技エリアから離れる場合、審査員へ理由を告げ許可を受けなければならない。 ③ 選手は競技中に不適格な行動、言動を行ってはならない。例. 他のチームの偵察や声掛けなどの競技の妨害等。 ④ 選手は安全に配慮し作業を行わなければならない。 ⑤ 審査員は、選手、観客の安全を確保しなければならない。 ⑥ 競技エリア内には許可を受けた者以外は立ち入ることが出来ない。 ⑦ 観客は、競技の妨げになるような行動、言動を行ってはならない。 ⑧ トライアル時間 パフォーマンスを行う前に設けられる機器調整時間で下記の作業が認められる。主査の指示によって開始、終了する。 他チームが行っている機器調整を観察してはならない。 <ul style="list-style-type: none"> ● 作成したプログラムの動作確認 ● 機器調整 ● プログラム変更 ● 通信状況の確認 ● その他必要な作業 ⑨ パフォーマンス <ul style="list-style-type: none"> ● パフォーマンスとは、選手がアリーナ内で行う各課題のロボットの実動作で採点として評価される。機器の操作等は審査員によって指示される。 ● パフォーマンス開始前に、通信方法を選択出来るが、その準備はトライアル時間内に行う事。 ● 有線LAN通信を選択した場合：「有線LAN通信でパフォーマンスします」と審査員へ申告する。 ● パフォーマンス中には機器調整、プログラム変更等は行う事ができないが、最低限必要な作業は審査員立会のもとで行うことが出来る。その際選手は、審査員へ申し出なければならない。 ● 時間内に3回のパフォーマンス終了したチームは待機する。 <p>2) 課題ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各課題は制限時間が設けられている。定められた時間内に終了し評価を受けなければならない。 ② プログラミングと動作テストは各チームのワークスペースで行う。（有線LANを使用する） ③ 完成されたロボットは、審査員の指示により指定場所へ選手が移動し、審査員によって管理される。 ④ アリーナでのパフォーマンスは選手によって行われ審査員が採点する。選手の行うことの出来るパフォーマンスの回数は各課題に明記される。 <p>3) 採点の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 採点は、アリーナでのパフォーマンス時に審査員によって行われる。 ● 採点は、ロボット等の動作確認を基準に行われる。 <p>4) 減点について（例）：課題内で設定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ロボットが動作しない場合 配点は0（ゼロ）点になる。 ② ロボットがアリーナ壁等に接触した場合 課題で定められた減点を受ける。 <p>5) パフォーマンス中のやり直しについて 原則下記事項以外は行われない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パソコントラブル ● Robotino のエラー表示時 ● 復活しない通信トラブル
17. 課題作成の流れ	競技当日の各課題の説明を参照のこと。

2、課題の説明

項 目	内 容
1. 競技概要	<p>1) ロボットへのプログラム作成と動作を競う課題。（課題は原則非公開） 2) 使用するプログラムは、Robotino View 1. 7 以上とする。 3) 課題は、複数準備されることがある。</p>
2. 課題内容	<p>1) ロボットへのプログラム作成によるロボットの動作。 2) ロボットへの機器追加とプログラム作成によるロボットの動作。 3) ロボットの組立、調整、メンテナンスとプログラム作成によるロボットの動作。</p>
3. 取り決め事項	<p>1) ハードウェア改造に関しての取り決め。 ① 改造に必要な部品は競技委員側で準備する。必要に応じて競技前に配布されることがある。 事前に配布された機器は原則改造してはならない。ただし、競技委員から認められた範囲では可能とする。 その内容は、記入された内容もしくは、競技委員会から連絡があったものとする。 選手側から改造依頼があった場合、競技員会は速やかに検討しその内容を全チームへ連絡を行う。</p> <p>2) プログラム作成に関する取り決め。 ① プログラムは全て競技開始後作成する。（競技中に作成したプログラムは後の課題で使用することが出来る。） ● 可の場合（例） 課題1で使用したプログラムを一部変更して課題2で使用する。 ● 不可の場合（例） 課題作成中に、その課題とはかけ離れたプログラムを作成し別の課題で使用する。</p> <p>3) パフォーマンスの取り決め。 ① 各課題の制限時間終了後、チームごとにアリーナにてパフォーマンスを行う。 ② 全チームのパフォーマンス終了後、次課題開始とする。</p> <p>4) 事前配布品について ① 課題で使用される機器（判別対象物など）は課題開始時に配布される。</p> <p>5) 作成したプログラムの保存 課題用に作成したプログラムは、審査員より指定された件名で保存する。保存先は審査員より指定される。</p>
4. 課題開始状態	<p>1) 次の状態からスタートする。 ① 選手パソコンのプログラミングソフト立上げ完了。 ② 審査員はストップウォッチスタート準備及び課題配布準備。</p>
5. 制限時間	課題時間制限が設定される。
6. 採点と配点	<p>課題内容の評価はアリーナで行われるパフォーマンス内容で行われる。</p> <p>1) 採点（配点）の内訳 ① 課題動作が完了されていること。 ② アリーナでのパフォーマンス時間内にスタート出来ること。 ③ 採点制限時間までが採点（配点）される。 ④ 定められたパフォーマンス数のみが採点（配点）される。</p> <p>2) アリーナでの採点手順 ① 課題終了後、チームごとにアリーナで採点が行われる。 ② アリーナでの採点は順番によっておこなわれる。 ③ 順番待ちチームは、指定された場所で待機する。 ④ 審査員より呼び出しのあったチームはアリーナへ移動する。 ⑤ 選手は主査の合図によりパフォーマンスを開始する。（パフォーマンス時間測定開始） ⑥ 審査員によりパフォーマンス採点を行う。 ⑦ 主査または審査員によりパフォーマンス終了合図を行う。</p>



3、ワークスペースの説明

項目	内 容
1. ワークスペースの設備	<p>① ワークスペース 課題作成場所。 3000mm×3000mmの範囲以内で、各チーム間には高さ1200mm以上のパーティションが設置される。</p> <p>② 選手用機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作業机（電源用タップ付）×1式 椅子×2式がアリーナ際に準備されている。 ● アリーナマット：アリーナで使用されている同様のマットが準備されている。（900×1800mm以上） ● PC×2式（マウス付） ● 課題作成用機器
2. ワークスペースでの無線LANについて	<p>ワークスペース内では原則無線LANの使用を禁止する。 Robotinoへのプログラム転送およびディバック作業は、有線LANを使用する。 詳細は中央職業能力開発協会のホームページに掲載されている「2011年度版 無線LANの使用について」を参照のこと。</p>
3. パフォーマンスの準備	<p>パフォーマンスを行う前に事前準備を行うことができる。課題作成時間終了後作業時間を与えられる。</p> <p>準備内容</p> <p>① 課題作成時間内に作成したプログラムの保存：審査員から支給された記憶装置（USBメモリ）と支給されたパソコンの記憶装置への保存。</p> <p>② その他、審査員から指示された事項。</p>

4、アリーナの説明

項目	内 容
1. アリーナの設備	<p>① アリーナ 課題採点用エリアで、各チームの完成課題のプレゼンテーションを行う場所である。原則として完成課題のトライアルとパフォーマンス以外には使用しない。（トライアルタイムを除く）パフォーマンス採点のための設定は審査員によって行われる。 3600mm×1800mmの範囲で、外枠床立上り250～300mmが設置される。</p> <p>② 選手用機器 作業机（電源用タップ付）×1式 椅子×2式がアリーナ際に準備されている。</p>
2. トライアルタイム	トライアルタイムとは、各課題に設けられている機器調整時間で下記の作業ができる。
	<p>① 作成したプログラムの動作確認</p> <p>② 機器調整</p> <p>③ プログラム変更</p> <p>④ その他必要な作業</p>
3. パフォーマンスの準備	<p>パフォーマンスを行う前に事前準備を行うことができる。</p> <p>準備内容</p> <p>① ロボットの移動</p> <p>② パソコンの準備（プログラム立上げ、無線LAN接続）</p> <p>③ その他、審査員から指示された事項</p>
4. 調整の範囲	トライアル時間内であればロボットに関するすべての調整を行うことが出来る。 (センサ、機器、プログラムの調整など)